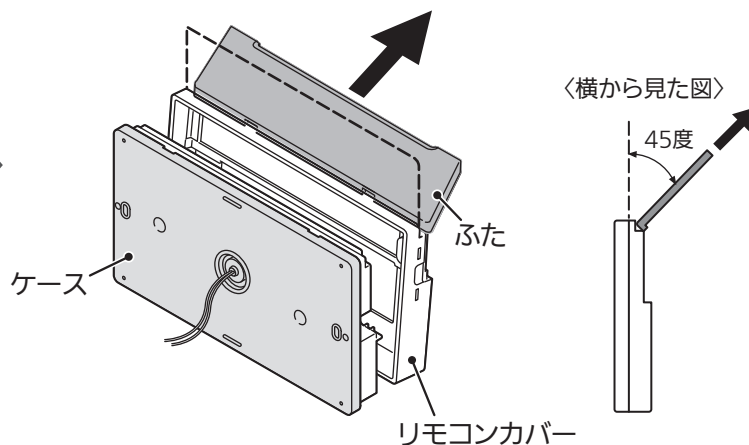
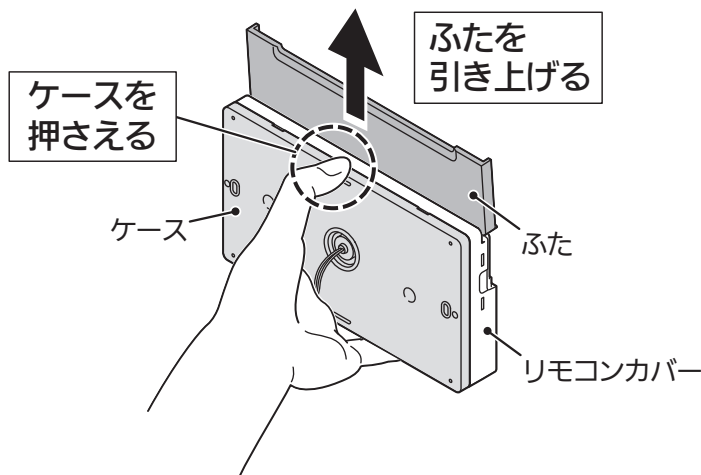




浴室リモコンカバーの外し方(必ずお読みください)

1. ケースを押さえ、ふたを図のように開き矢印の方向に引き上げる

2. ふたを矢印(45度)の方向に引き、リモコンカバーをケースから外す



- 【お願い】
- 無理にこじ開けないでください。ケースのツメが折れるおそれがあります。
 - 最初に保護フィルムを外してください。再使用しますので捨てないでください。



昼間沸上げ形自然冷媒CO₂ヒートポンプ給湯機用

リモコンセット				サブリモコン		
浴室リモコン	タイプ	形名	形名コード		形名	形名コード
	インターホン	RMCB-D6SE-PV	58T002		RMCB-KZ6	51Z017
台所リモコン						

- リモコンを使用しないと給湯機のわき上げが行なえません。
- リモコンは当社電気給湯機専用です。
- 適用機種は、当社カタログ・貯湯ユニットに付属の据付工事説明書などに記載してあります。

据付工事説明書 販売店・工事店様用

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい工事が必要です。工事の前に、この「据付工事説明書」を必ずお読みください。この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、当社指定部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じたときには責任を負いかねます。

安全のために必ずお守りください



注意

誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつきます。



必ず電源ブレーカーを「切」にしてから行う感電の原因になります。

指示に従う



板金の端面に注意するけがの原因になります。

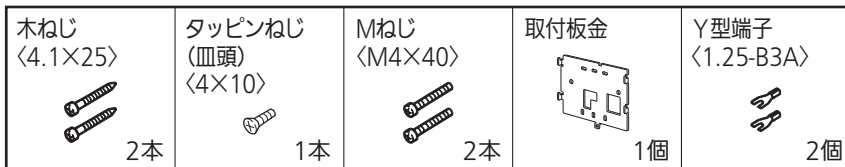
指示に従う

1. 付属品の確認

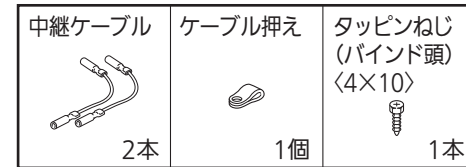
①浴室リモコン



②台所リモコン、サブリモコン



サブリモコンのみ



※サブリモコン(RMCB-KZ6)は上記部品が加わります。

2. 工事に必要な工具、部材

●工事前に準備ください。

○:必要 -:不要

○:必須 △:必要に応じて使用 -:不要

工具	リモコン		市販品、注意事項等
	浴室	左記以外(※1)	
Y型端子用圧着工具	-	○	日本圧着端子製造株式会社製 YHT-2210 (JIS C9711規格品)
接続端子用圧着工具	○	○	株式会社ニチフ製 NH11
ドライバー(+ 2番)	○	○	電気ドライバー及びインパクトドライバーなどは使用禁止です。

部材	リモコン		当社別売部品形名
	浴室	左記以外(※1)	
リモコン線 ※2	○	○	LM-620BまたはLM-650B
シリコン系シーリング剤	○	-	市販品
リモコン壁貫通パイプ	△	-	GT-5SEKPA
補強用木片	△	-	市販品
圧着端子	△	△	市販品
PF管 φ16	○	○	市販品
オールプラグまたはボードアンカー ※3	△	△	市販品

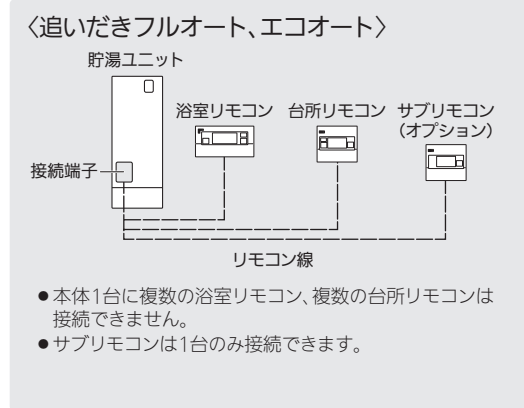
※1. 台所、サブリモコン ※2. リモコン線は、当社別売部品(形名: LM-620BまたはLM-650B)を設置条件に合わせて切断してご使用ください。
 ※3. 許容引張力 0.9kN/本 以上のプラグをご使用ください。

3. 接続概要図

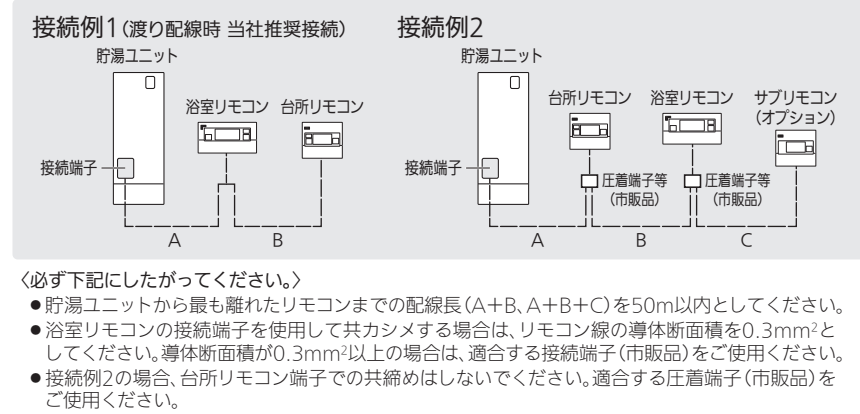
貯湯ユニットへの接続は、貯湯ユニットに付属の据付工事説明書をご覧ください。

- 既設のリモコン線を使用する場合も、当社リモコンケーブル相当品(より線2芯式、導体断面積0.3~1.65mm²、絶縁体外径2mm以下、67.6Ω/km以下)としてください。また、リモコンと接続しない不要な分岐配線は残さないでください。
- 3芯以上の多芯線は使用しないでください。余分な芯線が他機器通信に使用されている場合だけでなく、未使用状態で放置している場合でも誤動作の原因になります。
- 貯湯ユニットから各リモコンまでの配線長は50m以内としてください。
- 貯湯ユニットから各リモコンまでのリモコン線は、PF管を通してください。(リモコン線全てをPF管に通すことが困難な場合も、必ず貯湯ユニットから家屋壁までの屋外配線箇所は切れ目のないPF管を通し、雨風や日光から保護してください。PF管に通さないと、リモコン線が断線したり、誤動作する可能性があります。)
- リモコン線はリモコン線以外の配線と約5cm以上離して配線してください。特に、リモコン線と電源線を同一パイプ内で配線することは避けてください。誤動作やエラー表示の原因になります。

リモコン接続概要図



渡り配線する場合の接続概要図



4. 取付場所の選定

共通事項	<ul style="list-style-type: none"> ● 必ず平らな壁面に取り付けてください。(凹凸があるとリモコンが変形して誤動作することがあります。また、側面付近に壁があるとインターホン使用時の音量が小さくなることがあります。) ● リモコン線の長さには制限があります。リモコン接続概要図(3項)を参照し、設置場所を選定してください。
台所リモコン サブリモコン	<ul style="list-style-type: none"> ● 必ず屋内に取り付けてください。 ● 台所リモコン、サブリモコンは防水タイプではありません。 ● スイッチ操作が容易にでき、表示が良く見える位置(目の位置より少し下側)を選んでください。 ● 無線タイプのドアホン親機より50cm以上離して設置いただくことをおすすめします。隣接していると、インターホン使用時にノイズ音を発することがあります。 ● 次の場所には取り付けしないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ○ ガステーブルの近くなど高温(45℃以上)になるところ ○ 湿気の多いところ ○ 直射日光のあたるところ ○ 湯気や水しぶきや油のかかるところ(防水タイプではありません。) ○ 幼児の手が届くところ
浴室リモコン	<ul style="list-style-type: none"> ● 浴室内のスイッチ操作が容易にでき、表示が良く見える位置(入浴中の目の位置)を選んでください。 ● できるだけ湯や水がかかりにくい場所に取り付けてください。設置場所の壁裏側は蒸気がかかるような場所、湿気が多い場所をさけてください。 ● ジェットバスなど、大きい音が発生する場所からはなるべく離してください。近いと、インターホン機能が誤動作する可能性があります。

5. 施工上のお願い

リモコン取付時のお願い

- リモコン本体を分解しないでください。
- リモコンを直接砂の上や鉄くずのある床の上におかないでください。スピーカー部(左上)に鉄粉等が付着し、音が出なくなります。
- 電気ドライバー、インパクトドライバーなどは使用しないでください。破損のおそれがあります。

リモコン線施工時のお願い

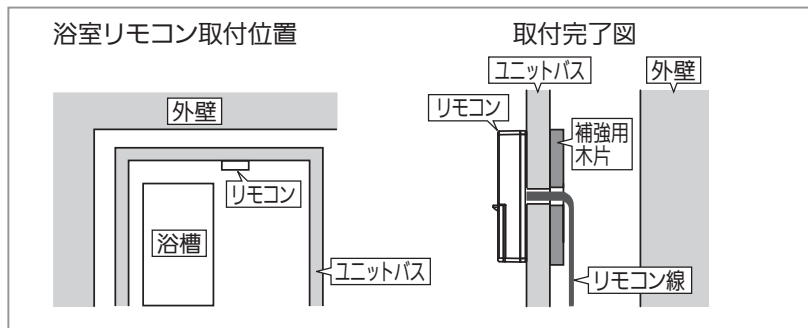
- 必ず、200V電源ブレーカーの電源レバーを「切」にしてから接続してください。「入」のまま工事をすると、「H01」エラーなどが表示される場合があります。
- リモコン線の断線、短絡等が無いことをテスターで確認してください。200V電源ブレーカーの電源レバーを「入」にする前に実施してください。不具合が発生した場合、保証の対象外です。
- 台所リモコン、浴室リモコン、サブリモコンの端子はどちらも無極性です。
- リモコン線の圧着(接続)時は、当社指定の圧着工具(株式会社ニチフ製 NH11 相当)を使用してください。また、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。
- リモコン線は、必ずケーブル押えで固定してください。端子部に直接外力が加わらないように確実に固定してください。
- リモコン線の芯線接続部どうしは接触させないでください。
- リモコン線どうしの中継をしないでください。誤動作の原因になります。
- リモコン線に商用電源(100V、200V)を接続しないでください。故障の原因になります。

6. こんなとき

症状	確認	処置
リモコンに「H01」エラーが表示	リモコン形名を確認	機種(貯湯ユニット)に応じたリモコンに交換
	貯湯ユニットに200V電源が供給されているか	200Vに交換
	台所リモコンにドライバー等差し込まなかったか	台所リモコン交換
	貯湯ユニットの電源を「切」にしてリモコン接続を行なったか	電源を「切」にしてから接続
	リモコン線に電源(DC12V)が供給されているか	リモコン線を50m以下、及び圧着部を確実にカシメる
リモコンの電源が入らない(表示がつかない)	リモコン線をリモコン線以外の配線と離して配線しているか	リモコン線をリモコン線以外の配線から5cm以上離す
	リモコン線の圧着は確実か	接続端子、圧着端子を確実にカシメる
	リモコン線に電源(DC12V)が供給されているか	リモコン線が断線している場合は交換または修復
	貯湯ユニットに電源が入っているか	貯湯ユニットの電源を入れる
	台所リモコンにドライバー等差し込まなかったか	台所リモコン交換
リモコン線が断線していないか	リモコン線が断線している場合は交換または修復	

7. 浴室リモコン取付工事

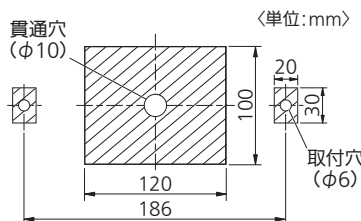
ユニットバスに取り付ける場合(壁内配線)



1 取付準備

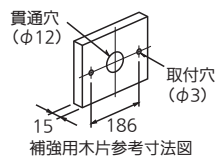
①壁面の凹凸をなくす

※コンクリート壁面の溝やタイル目地など、壁面にパッキンシールに適さない凹凸がある場合は斜線部をシリコン系シーリング剤で平らにしてください。



②リモコン線用貫通穴(φ10mm)、リモコン取付穴(φ6mm、2カ所)をあけ、室内側からリモコン線を通しておく

※壁パネルに取り付ける場合は、裏側に補強用の木片(現地調達品)を取り付けてください。木片にはリモコン線用貫通穴(φ12mm)とリモコン取付穴(φ3mm、2カ所)をあけ、接着剤などで壁裏面に付けます。



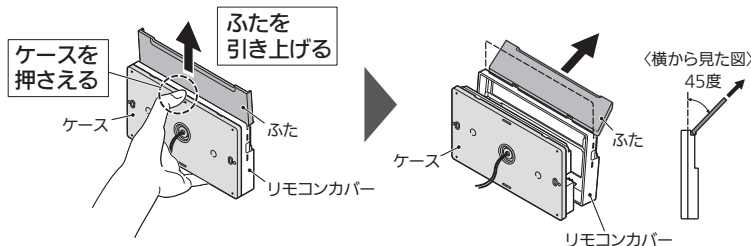
2 リモコンカバーを取り外す

①保護フィルムを外す

※再使用しますので捨てないでください。

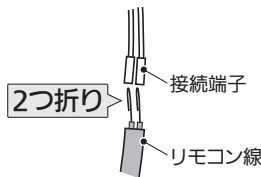
②ケースを押さえ、ふたを図のように開き矢印の方向に引き上げる

③ふたを矢印(45度)の方向に引き、リモコンカバーをケースから外す



3 リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。その際、リモコン本体に負荷がかからないようにしてください。リモコン線が抜けて故障するおそれがあります。



施工未了時の通電は、故障のおそれがあります。

④項以降は、給湯機試運転の給水完了後に実施してください。

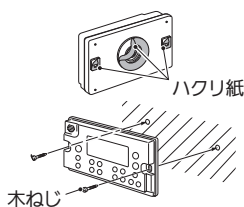
4 貯湯ユニットの電源を入れ、リモコン本体の動作確認後、再度貯湯ユニットの電源を切る

※画面の表示、バックライトの点灯、音声ガイダンスを確認してください。※必ず、リモコン固定(⑤項)前に実施してください。リモコン線施工不良の症状がある場合は、手直してください。

5 リモコンの固定

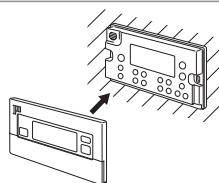
①パッキンのハクリ紙(3カ所)をはがし、リモコンを仮取付する

②リモコンケースを付属の木ねじ2本で壁に固定する



6 リモコンカバーを取り付ける (上部をかぶせた後、下部を押し込む順で行うと正しく取り付けます。)

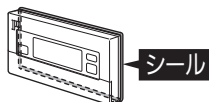
※リモコンカバー取付後、手順2で外した保護フィルムを表示面にキズやほこりがつかないように貼ってください。



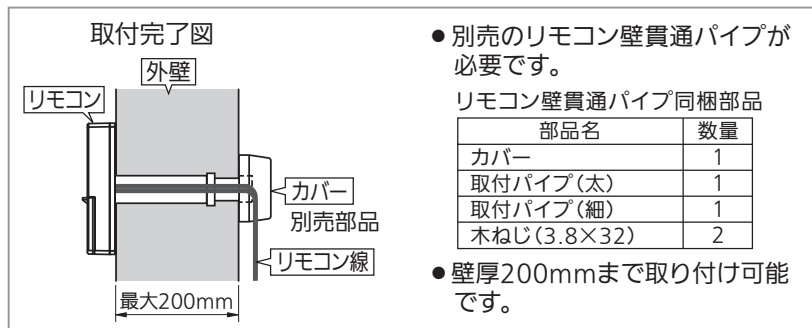
7 リモコン全周をシールする

水がリモコンの裏に入らないようシリコン系シーリング剤を使って、浴室リモコン全周にシールする

※水や蒸気が浸入し、故障するおそれがあります。



コンクリート、タイルなどの壁に取り付ける場合(壁貫通)



●別売のリモコン壁貫通パイプが必要です。

リモコン壁貫通パイプ同梱部品

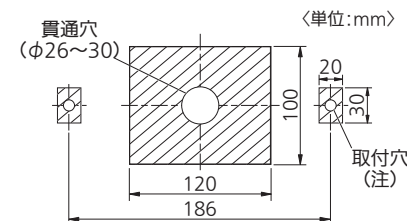
部品名	数量
カバー	1
取付パイプ(太)	1
取付パイプ(細)	1
木ねじ(3.8×32)	2

●壁厚200mmまで取り付け可能です。

1 取付準備

①壁面の凹凸をなくす

※コンクリート壁面の溝やタイル目地など、壁面にパッキンシールに適さない凹凸がある場合は斜線部をシリコン系シーリング剤で平らにしてください。



②貫通穴(φ26~30mm)、オールプラグ取付穴(2カ所)をあけ、オールプラグを打ち込む

注:穴径、深さは、ご使用のオールプラグに合わせて調整してください。

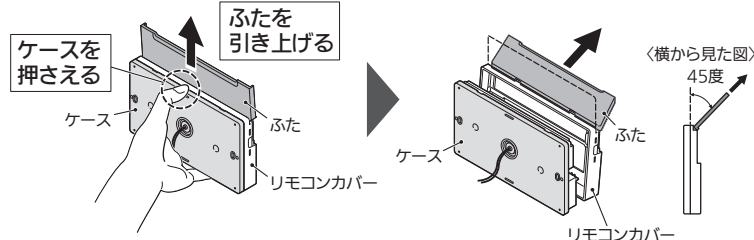
2 リモコンカバーを取り外す

①保護フィルムを外す

※再使用しますので捨てないでください。

②ケースを押さえ、ふたを図のように開き矢印の方向に引き上げる

③ふたを矢印(45度)の方向に引き、リモコンカバーをケースから外す



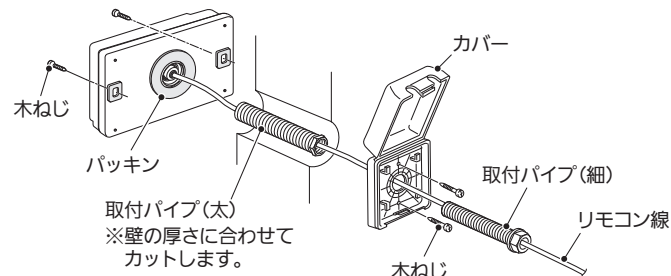
3 リモコン、カバーの固定

①取付パイプ(太)へリモコン線を通してリモコンにねじ込む

②パッキンのハクリ紙(3カ所)をはがし、リモコンを仮取付する

③リモコンを木ねじ2本で壁に固定する

④カバー、取付パイプ(細)にリモコン線を通し、取付パイプ(細)をねじ込み、カバーを木ねじ2本で固定する

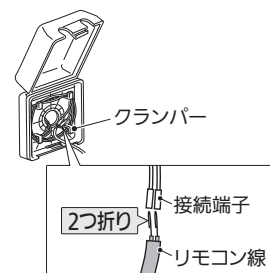


4 リモコン線の接続

①リモコン線の芯線を2つ折りにして、接続端子に圧着する

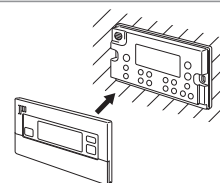
②接続部がカバーの内側になるように、クランパーにリモコン線を巻き付けてカバーのふたをする

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。その際、リモコン本体に負荷がかからないようにしてください。リモコン線が抜けて故障するおそれがあります。



5 リモコンカバーを取り付ける (上部をかぶせた後、下部を押し込む順で行うと正しく取り付けます。)

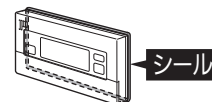
※リモコンカバー取付後、手順2で外した保護フィルムを表示面にキズやほこりがつかないように貼ってください。



6 リモコン全周をシールする

水がリモコンの裏に入らないようシリコン系シーリング剤を使って、浴室リモコン全周にシールする

※水や蒸気が浸入し、故障するおそれがあります。

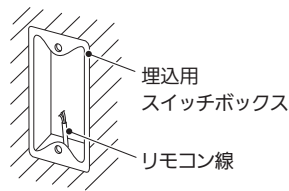


8. 台所リモコン、サブリモコン取付工事

リモコン線を壁中に通す場合(埋込配線)

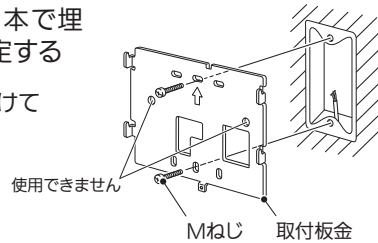
1 取付準備

- ①リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス(1個用)を取り付けておく
- ②リモコン線を電線管に通し、貯湯ユニットまで配線しておく



2 取付板金を付属のMねじ2本で埋込用スイッチボックスに固定する

※「合」が上になるように取り付けてください。

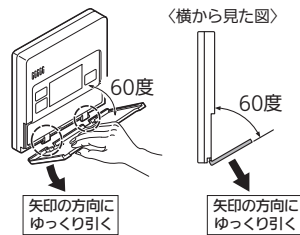


3 リモコンのふたを外す

ふたの中央部の根元を持ち、およそ60度にふたを開き、両方のツメに均等に力が加わるよう、ふたの面に対して矢印の方向にゆっくり引く

※無理に引っばるとツメが折れる場合があります。ゆっくり注意して外してください。

※台所リモコンは、ドライバー等でこじ開けないでください。故障するおそれがあります。



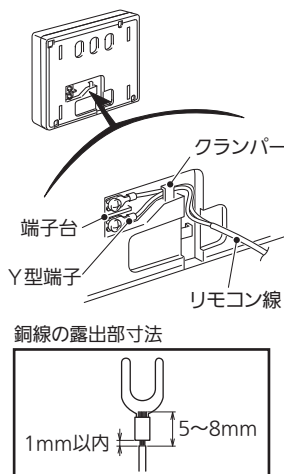
4 埋込用スイッチボックスから出ているリモコン線を付属のY型端子に圧着して、クランパー(1カ所)に固定後、端子台にねじ止める

※締付基準トルク:0.61~0.82N・m

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。

※銅線の露出部は、図にしたがってください。リモコン線が短絡した状態で通電すると、リモコンが故障するおそれがあります。

※リモコン線は必ずクランパーで固定してください。リモコン線を強く引っ張った際に端子台がはがれるおそれがあります。



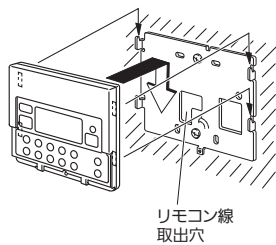
5 リモコンを取付板金に取り付ける

※取付板金の金属端面に注意して配線してください。

※リモコン線が取付板金にかみ込まないように取り付けてください。

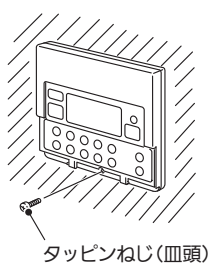
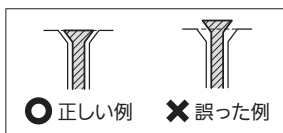
※取付場所によっては、多少がたつきがあります。

※取付が正しくないと次の手順6でねじを挿入できません。



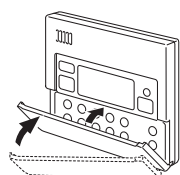
6 タッピンねじ(皿頭)で固定する

※ねじ頭がとび出さないようにしてください。



7 リモコンのふたをパチンと音が鳴るように取り付ける

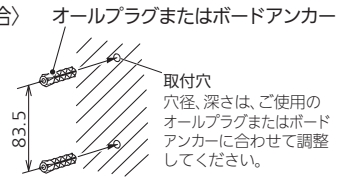
※取付後、ふたが開閉できることを確認してください。



壁面に取り付ける場合(露出配線)

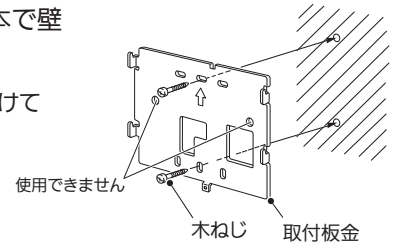
1 取付準備

- 〈壁がコンクリートブロック、石膏ボードなどの場合〉
- ①オールプラグまたはボードアンカー用の取付穴(2カ所)をあける
 - ②取付穴にオールプラグまたはボードアンカーを打ち込んでおく

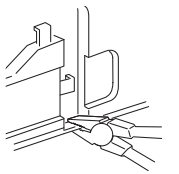


2 取付板金を付属の木ねじ2本で壁面に固定する

※「合」が上になるように取り付けてください。



3 配線取出口をニッパーなどで切り欠く

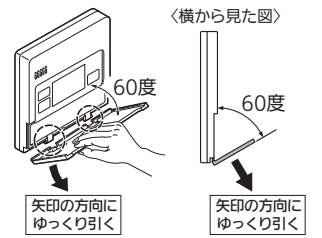


4 リモコンのふたを外す

ふたの中央部の根元を持ち、およそ60度にふたを開き、両方のツメに均等に力が加わるよう、ふたの面に対して矢印の方向にゆっくり引く

※無理に引っばるとツメが折れる場合があります。ゆっくり注意して外してください。

※台所リモコンは、ドライバー等でこじ開けないでください。故障するおそれがあります。



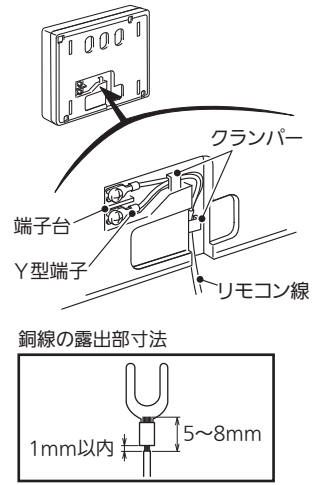
5 リモコン線を付属のY型端子に圧着して、クランパー(2カ所)に固定後、端子台にねじ止める

※締付基準トルク:0.61~0.82N・m

※リモコン線の圧着(接続)時は、引張強度35.6N以上を圧着後に確認してください。

※銅線の露出部は、図にしたがってください。リモコン線が短絡した状態で通電すると、リモコンが故障するおそれがあります。

※リモコン線は必ずクランパー(2カ所)で固定してください。断線のおそれがあります。リモコン線を強く引っ張った際に端子台がはがれるおそれがあります。



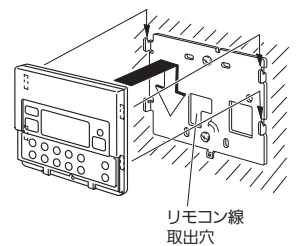
6 リモコンを取付板金に取り付ける

※取付板金の金属端面に注意して配線してください。

※リモコン線が取付板金にかみ込まないように取り付けてください。

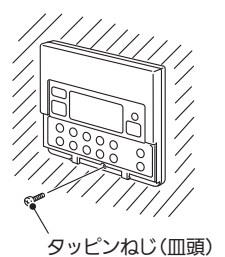
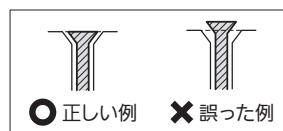
※取付場所によっては、多少がたつきがあります。

※取付が正しくないと次の手順7でねじを挿入できません。



7 タッピンねじ(皿頭)で固定する

※ねじ頭がとび出さないようにしてください。



8 リモコンのふたをパチンと音が鳴るように取り付け、リモコン線を壁に固定して配線する

※取付後、ふたが開閉できることを確認してください。

